

平成29年5月1日 発行

八葉山 天名寺 だより 第5号

天台寺本堂・仁王門保存修理工事現況報告

本堂修理工事4年目の平成28年度は、腐って傷みの激しい部分だけを切り取り、同じ材種の新しい木材で補うなどの方法で修繕を行って来ました。本堂は木材補修も終わり、元通りに柱を建て直し、壁板をはめ込むなど、各部材の組立作業中となります。また、仁王門の修理工事では補足木材（桂材等）の調達をいたしました。以下、工事進捗状況を写真にて報告いたします。今後ともご支援、ご協力をお願いします。



傷みの激しい部分を切り落とす



元の部材の形に合わせて新材を加工



新旧の部材を組み合わせ、一本の柱に



建て直した柱に部材を元通り建て込む



元通りに組み立てられていく本堂



①



②

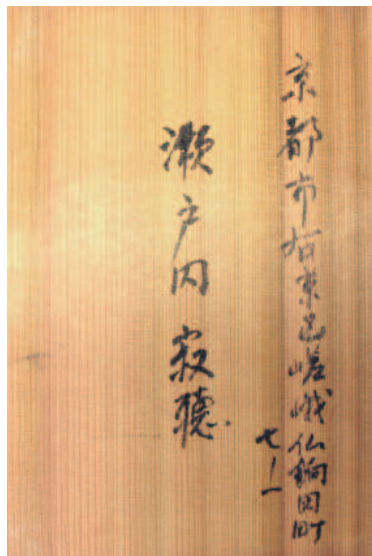


③



④

本堂の南東隅から見た組立過程。赤丸で囲んだ部分は本堂内奥にある厨子（ずし）と呼ばれ、かつて本尊を安置していた場所となる



本堂屋根に使う「とち葺」の葺板に、寄進2,000円以上で自分の名前や願い事等を書くことができます（以前に寄進された方については、天台寺側で代筆致します。写真は瀬戸内寂聴名誉住職自筆の葺板）



厨子の屋根。美しい曲線を描いており、厚さ3mm程の板を重ねる「こけら葺」という葺き方となる。今回の保存修理工事では仁王門も同じ「こけら葺」で、本堂はもっと厚い板を用いる「とち葺」で葺く

<写真提供>公益財団法人 文化財建造物保存技術協会

天台寺保存修理事業へのご寄進を随時受け付けておりますので、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

<寄進方法>

郵便振替(ゆうちょ銀行)口座 02230-1-106184 天台寺本堂等修復事業推進委員会
〒028-6942 岩手県二戸市浄法寺町御山久保33 八葉山 天台寺(TEL・FAX:0195-38-2500)

(題字「天台寺」は、南北朝時代・正平18年(1363)に奉納された銅鰐口の銘で、現存資料中寺名が記された最も古いものです。)